

青山学院校友会大学部会 第3回同窓会会長会議 議事録

開催日時： 3月16日（土曜） 10時30分－11時45分

場所： 校友会グリーンエリアA室

出席者： 参加者 23名

議事内容

1. 開会祈祷

黒沼大学部会長より、開会のお祈りをいただいた。

役員会は日頃のルーティンな事柄について処理していく場だが、会長会議は同窓会同士が議論できるイベントであり、会長の枠を広げ各同窓会の実務を担う方々が意見を交換できる場となればよいと願っている。

2. 開会挨拶

朝倉大学部会副部会長より、開会の挨拶をいただいた。

校友会の規約では、卒業生は全て同窓会の会員になります。ただ同窓会によっては、会費等の支払い有無により会員間での活動を区別している同窓会があります。そこでこの場を借りて、同窓会活動を行うにあたり「会費の支払い有無に関わらず同じ同窓会の仲間である」ことを基本的な考え方として共有したいと思います。

3. 趣旨説明

永易委員長より、本日の会議の趣旨説明を行った。

別途資料: 第3回同窓会会長会議資料参照のこと。

4. 若手交流イベントの紹介

1) 学院連携本部主催のクリスマス・パーティについて

学連連携本部と校友会の副会長を中心とした執行部が推進役となって、20歳代のOBOGを対象に集まってもらう企画した。当日は、約70名が参加した。そして今後は、参加してくれたOBOGを中心に若いOBOGが集まりやすい企画をたてて活動していくことになった。

2) 経済学部学生会とのバーベキュー大会について

経済学部同窓会が、経済学部の学生会と一緒にバーベキューパーティを企画し実施した。

3) 校友会オフィシャルサイト活用について

3名(山本氏、有園氏、永易氏)によるパネルディスカッション方式で行った。校友会オフィシャルサイト活用奮闘記のパネルディスカッションは予想以上に盛り上がり、最後のグループディスカッションの時間が足りなくなった。

5. グループディスカッション

各同窓会のメンバーが4つのグループに分かれ、活動内容の共有と課題についての話し合いを行った。

以下に各グループで討議された内容を明記します。

○デジタル化(会報の電子化等)

- ・会報のデジタル化について、他同窓会の取り組みを拝見し、前向きに検討したいと感じた。
- ・他方で、高齢で機器操作に不慣れな会員の多い同窓会では、電子化への移行は難しい。過去から同窓会を支えていた会員のつなぎとめも重要。
- ・HP等のデジタル化は進んだが、出欠確認等はハガキを利用。
⇒デジタル化については必要性を感じているものの、一気に切替え出来るようなものではなく、ハイブリッド形式が「全会員」へのアプローチとして望ましいのでは。

○学生へのアプローチ

- ・同窓会が直接意欲のある学生をリクルートするのは、様々な制約があり困難。
- ・高等部のように、学校側が各学年毎に数名連絡員のような形で、人員を選出するのも一案。
- ・大学は、クラスのような概念が希薄で繋がりが弱く協力してくれる人がいるのか。
⇒学院連携本部等の学院側が学生にアプローチし、同窓会との連絡員・担当者を選定するのが良いのではないか。

○どう学生を巻き込むか

- ・学生団体がそもそもないため、コンタクト方法が分からない。

○名簿作成に苦戦

- ・郵送しても住所が変わっているケースがあり、戻ってきてしまう。
- ・マンパワーには限界がある。

○仏文学科の成功例

- ・(元) 教員を招いてレギュラーで講座を実施。
それを柱に情報の収集、拡散に成功している。
- ・エア会費とも比較的多く参加している。

○仕事面との両立に苦戦している。

- ・業種は、非常に様々である。

短い時間ではありましたが、とても盛り上がった中で討議が行われた。各同窓会がイベント等の活動を紹介し合うことでお互いに情報共有ができ、交流が広がったことは非常に大きな成果だったと感じている。

会議終了後、懇親会をフィリアで行い参加者間の親睦をはかった。

以上、議事録まで